

広報

いちき串木野

R7. 8. 20 発行

8

vol. 238

平和について考える 8 月
80年前この海から迫った恐怖

特集

- ① 戦後80年～本土決戦の真実～
- ② 長崎鼻公園リニューアル



いちき串木野市公式LINE

イベント情報など配信中！ぜひご登録ください



戦後80年

真近に迫った本土決戦の真実

平和のために見つめ直す 80 年前の真実



本市への空襲の様子

出典：いちき串木野市郷土資料集 4
戦争の記憶編

80年前の1945年8月15日、日本はアメリカに無条件降伏し、第二次世界大戦は終結を迎えました。しかしながら、降伏していなければ、アメリカ軍は、本市を含む南九州から日本に上陸する作戦（通称：オリンピック作戦）を企てていたことをご存知でしょうか。そうなっていれば、このまちも悲惨な本土決戦の舞台になっていたかもしれません。

終戦から80年を迎え、当時のことを知る方が少なくなってきた中で、今回は、戦争を語り継ぐ会副会長で、戸崎地区に住み、実際にオリンピック作戦へ備えた旧日本軍を目の当たりにした中山重雄さんにお話を聞きました。

死ぬ思いがした機銃掃射からの銃撃

ー日本本土への空襲や銃撃が激化していた終戦間際の1945年7月。10歳の中山さんは、母親と田んぼで作業をしていた。草を刈っていると突然、湯之元方面からアメリカ軍の戦闘機が襲来し、機銃掃射を受けた。

1回目の襲来で、運よく銃撃に当たらず、母親とともに急いで田んぼの隅の用水路に飛び込んで、水面から顔だけ出して様子を見ていた。ぐるっと回ってもう一度襲来した戦闘機は、パイロットと目が合うほどの高さを飛んでおり、機銃掃射のドドドッという銃撃の音が怖くて、生きた心地がしなかった。ー

中山さんは、隠れながら「痛い思いをして死ぬのは嫌だな。足や手に大怪我したくないな」という思いでいっぱいだったと語ります。3度目の襲来はなく、用水路でずぶ濡れになった母親と身を寄せながら自宅に帰りました。

当時、防空壕前に爆弾が落ちて亡くなる人が出たり、民家の壁に銃撃の大きな穴が空くなどを見聞きして、アメリカ軍の攻撃を身近に感じていました。



中山 重雄 さん (90歳)

1935年生まれ。戦時中空襲や敵機からの銃撃を経験し、10歳で終戦を迎える。またオリンピック作戦に備えた旧日本軍を間近で体感した。10年前に「戦争を語る会」を有志と立ち上げて、学校などで自身の戦争体験を伝える活動を行っている。

戦車特攻の訓練を見てこれは只事ではないと感じた

オリンピック作戦へと備える旧日本軍

第二次世界大戦末期、アメリカ軍は、日本を降伏させるため、本市をはじめとする南九州へ上陸するオリンピック作戦を企てていました。その作戦を察知した旧日本軍は、上陸予想地点に部隊を配備して、塹壕や弾薬の準備に取り掛かりました。中山さんが戦後に調べた資料によると、その中でも戸崎地区は、多くの部隊が配備され、死守という文言が使われるほどの重要地点でありました。

弾薬や物資を地域の方と一緒に荷下ろしたと語る中山さん。当時は、日本全国に兵隊さんが訓練しているのだと思い、近所で行われる訓練を見ていました。しかしながら、兵隊さんが爆弾に見立てた薪を抱えて、戦車に特攻していく訓練を目の当たりにした時、子どもながらこれは只事ではないと感じたと振り返ります。

その後 1945 年 8 月 15 日に終戦を迎え、オリンピック作戦は実行されませんでした。大人になり、戦争について調べた時に、自分の生まれた町がアメリカ軍に侵攻されるかもしれなかったということに恐怖を感じたと中山さんは話します。



アメリカ軍が計画していた上陸計画
参考：戦史叢書



▲現在の戸崎海岸



戸崎海岸の防空壕跡▶

生きている限り戦争を伝える活動をしていきたい



中山さんは、10年前から「戦争を語る会」を有志と立ち上げて、多くの現代人が体験していない戦争を学校などで次世代の子どもたち伝える活動を続けています。

「当時の日本はなぜこれほど大変なことになるまで、停戦や休戦をしなかったのか。人の命が軽く考えられていた。人と人が殺し合う戦争は、二度としてはいけない。自分の命も他人の命も大切にしてほしい。そのため、命ある限りこれからも伝える活動をしていきたい」と力強く話していただきました。

新 長崎鼻公園

リニューアル 始まっています♪



跳びはねて遊ぶネット遊具



斜面を利用した遊具



車椅子でも使える遊具

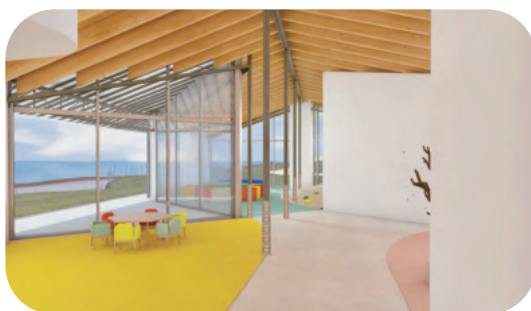


至 長崎鼻灯台



海水プール

※イラストと画像はイメージです。



1 屋内遊戯室



2 海を見ながら
飲食できるカフェ

市では長崎鼻公園を幅広い世代の方が安心して楽しめる場所になるように、昨年から、公園の課題や要望等を参考に実施設計を進めてきました。この度、設計が完成し、現場工事が始まりましたので、公園全体の概要をお知らせします。

なお、リニューアルオープンは令和8年夏頃を予定しています。この期間、長崎鼻公園の一部が利用できません。皆様のご理解ご協力をお願いします。



市体育センター

駐車場

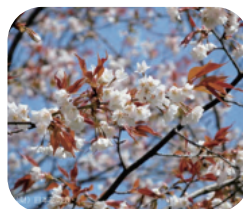
雨の日に利用しやすいポーチと障がいのある方や高齢の方に配慮したスペースのある駐車場

至 ホテルアクシアくしきの

自然いっぱい♪



ヤマモモ



サクラ



どんぐりの木



3

誰でも歓談を楽しめる
多目的ホール

詳しい内容や図面は
右の二次元コードから



● 問合せ 都市建設課 ☎21-5153

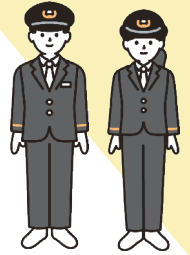
市内公共交通の再編を実施します

～10月1日からいきいきバス・タクシーが変わります～

公共交通の現状と再編

市では、高齢者、免許返納者等の外出支援や促進、市民生活に必要な移動手段を確保するため、交通事業者へ委託し、コミュニティバスの「いきいきバス」、乗り合いの「いきいきタクシー」を運行しています。しかしながら、今般の交通業界の運転手不足や労働時間問題等により市内公共交通の再編が必要となり、交通事業者などと調整を行ってきました。

それに伴い、10月1日よりいきいきバス・民間事業者のバス路線の統合、いきいきタクシーのエリア拡大、新規導入、公共ライドシェアの導入等、市内公共交通の再編を実施いたします。皆さまのご理解ご協力をお願いします。



市内公共交通再編図



再編内容 新しいダイヤなど詳しくは、広報紙9月22日号に掲載します。

① いきいきバス2路線と民間の路線バス1路線を1つに統合

統合路線 いきいきバス羽島荒川線、木原墓地線、鹿児島交通路線バス羽島土川線

運行日 毎日（土曜日曜祝日は減便）

運行経路 羽島車庫～荒川下～串木野駅～本町～市役所前～本町～小瀬～島平～酔之尾～神村学園前～市来ふれあい温泉センター～市来農芸高校～市来駅

② いきいきタクシー冠岳・生福・上名線の改称・エリア拡大

冠岳・生福・上名線を串木野東部線に改称し、同路線に木原墓地・八房・海瀬のエリアを編入します。

③ 荒川地区にいきいきタクシーを導入

バス路線の廃止に伴い、交通空白地となる荒川地区に新たにいきいきタクシーを導入します。

運行経路 郊外地（荒川地区の自宅等） ⇄ 串木野市街地（バス停）

④ 羽島地区に公共ライドシェアを導入します

バス路線の廃止に伴い、交通空白地となる羽島地区に新たに公共ライドシェアを運行します。

運行日 毎日（土日祝日は減便）

運行経路 土川、下山、平山、万福 ⇄ 羽島車庫（いきいきバスに接続）

※土曜日のみ：羽島地区（各バス停にて乗降） ⇄ 串木野市街地（バス停にて乗降）